

## 家庭科

# 自己の変容を促し、新たな生活を創る

## 中学校家庭科の題材開発

### —「幼児とのふれあい体験学習とナラティブ・アプローチ」—

藤井志保

#### 1 はじめに

平成24年度から完全実施されている学習指導要領技術・家庭科家庭分野においては、その改善のねらいとして「自己の生活の自立を図る」「自己と家庭、家庭と社会のつながりを重視する」「社会の変化への対応を重視する」「実践的・体験的な学習活動および問題解決的な学習の充実をはかる」ことの4点があげられている。そして、「社会の変化」の中でも、少子高齢化や家庭の機能が十分果たされていない状況に対応することの必要性が述べられ、「家庭の機能を理解し、人とよりよくなかかわる能力の育成を目指した学習活動を一層充実する。幼児への理解を深め、家族と家庭の役割に気付く幼児ふれあい体験などの学習を、さらに充実する。」と改善の具体的内容が挙げられている。このように「幼児とのふれあい体験」についてはさらに重視して実施するという方向性が示された<sup>1)</sup>。

改善のねらい4点のうち2点は「自己」というキーワードがあり、これは本学校園の家庭科部会のテーマである「自己の変容を促し、新たな生活を創る」につながるものである。しかし、これまでも、取り組みの内容をこのテーマに迫るものにまで高めることができていないことが課題であった。

幼い子どもとふれあい、「自己を変容させて新たな生活を創っていく」ことは、まさに「自分の物語」やこれからの生活を語ることであり、幼児とのふれあい体験に関わる活動に「ナラティブ・アプローチ」を取り入れることにより、よりめざ

すべき姿に近づくのではないかと考えた。

#### 2 研究のねらい

本研究は、幼児とのふれあい体験学習を軸とした中学校2年生（8年生）の技術・家庭科の家庭分野「家族・家庭と子どもの成長」の学習過程に、ナラティブ・アプローチの視点を意図的に取り入れ、本教科のめざす「自己の変容」と「新しい生活の創造」をめざすことをねらいとする研究である。具体的なナラティブ・アプローチの視点とは、幼児とのふれあい体験学習の事後学習に、「あの時」「今」「これから」の自分を語る（自分の物語を書く）活動を取り入れた。また、今までのふれあい体験の写真を見たり、幼児のつぶやきの記録を伝え、積み重ねてきた幼児との交流の記録を読んだりした。そしてまた、学びの全体像を一枚の用紙にまとめふりかえり、その「意味づけ」を行うことで、実践的体験的な学びが、客観性や科学性を伴い、これからの子どもたちの生活や人生と結びつき「生きる力」として深まるよう学習活動全体の充実を図った。8年生の題材配列表を表1に示す。

また、北澤<sup>2)</sup>によると「ナラティブ・アプローチとは自分の言葉で自分の現実を語り、自分の人生（「自己物語」）を作り出していくこと」であり、「今の自分と確かなつながりをもった新しい語りを見つけることは誰にでも可能であり、その繰り返しがよりよく生きること（「つくり、つくりかえ、つくる」こと）につながる」と述べている。そして、梶田<sup>3)</sup>は、自分のことを語ることで自分自身を再確認し、その語りの中でさまざまな人と

表1 家庭分野 8年生 1年間の題材配列表

1年間の流れ		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
テーマ 共に生きる 自分を見つめ	8年生の家庭科で 何を学ぶか	自分の成長と家族【A-1】		幼児の生活と家族【A-3】			家庭生活と消費・環境【D-1・2】		幼児の生活と家族【A-3】 【B-1 2 3】 【C-3】		家庭と家族関係【A-2】		衣服の選択と手入れ【C-1】 自分の成長と家族【A-1・3】		
		絵本の世界へ			おやつ作り【生活の課題と実践】			幼児へのプレゼント作り【生活の課題と実践】			くらしを見つめて【生活の課題と実践】				
		幼児のイメージマップ	ペア幼児との出会い	幼児の心と体の発達 幼児についての調べ学習	幼児と家族 幼児の食生活	家庭生活と消費・環境【D-1・2】		幼児の食生活 幼児に適したおやつ作り 布を用いたものの製作		よりよい家族関係 家庭と地域のかかわり	手入れと補修 ミシンの使い方 ペア幼児のための小物作り		幼児とのふれあいの ふれあ 今までの自分 これからの自分		
運動会での交流				運動会のふりかえり				幼児に適したおやつ作り				幼児さんへプレゼント			

のやりとり、さまざまな場で自分が感じたことや思ったこと等々が自分自身に見えてくると述べている。このことから、「自己の変容」と「新たな生活の創造」のために、ナラティブ・アプローチがその手立てとして有効なのではないかと考えた。

そして、ふれあい体験学習の最終目的は、幼児とふれあう方法を学ぶことだけではない。ペア幼児とふれあいながら、自分の幼い頃に思いを馳せ、これまでに自分も多くの人に支えられてきたことに気付く中で、幼児に関する知識を得るだけでなく、これからの生き方をも考えられるような題材を投げかけることが必要であると考えている。

筆者は、2年前より「地域の高齢の方との交流学習」「幼児とのふれあい体験学習」を総合的な学習の時間、特別活動や道徳の時間と関連付けて、総合単元として取り組んでいる。この流れを生かし、家庭科の内容を発展させ、学んだ知識や技能をテーマ解決の手段として用いることで、より効果的に自分の実生活に生きてはたらく力に高めることができることが明らかになった。このことから、現在の社会状況や次に述べる本学校園の環境と家庭科でめざす子どもたちの姿の関連性を考えた時に、限られた家庭科の授業時数の中で、内容をさらに深め充実させていくには、本学校園で取り組んでいる新領域希望（のぞみ）の自己開発型教育とも関連させて取り組むことが効果的ではないかと考え模索中である。

以上のように本研究は、技術・家庭科の家庭分野「家族・家庭と子どもの成長」の学習過程に、ナラティブ・アプローチの視点を意図的に取り入れたことが、どのように子どもたちの意識に変容

をもたらしたかを、生徒のワークシートの記述や自己評価のアンケートなどから検証するものである。

### 3 三原学校園と家庭科でのふれあい体験学習

本学校園は、同敷地内に幼稚園・小学校・中学校がある幼小中一貫教育校で「人と人のかかわり」をキーワードに、異校種、異学年交流を積み上げてきた歴史がある。幼稚園と小学校で、あるいは小学校の異学年で「年長児と4年」「1年と5年」というペア学年がある。それは、小学校と中学校でも「3年と7年(中1)」「4年と8年(中2)」と続き、行事などを中心に交流活動を行っている。つまり多くの子どもが、幼児期、児童期に年上の子どもや中学生との交流経験を持つ。三原学校園の一番の大きな行事は幼小中合同大運動会である。合同であることを象徴する種目に「お兄さんとお姉さんといっしょ」という園児・小学校4年・中学校8年が一緒に踊る種目もある。これは、中学校8年が踊りを作り、4年生に教え、さらに園児に教え共に踊るというものである。

以上のように、このような人と人のかかわりがある環境が、家庭科で学ぶ幼児についての学習を支えている。

### 4 取り組みの実際

幼児とのふれあいに関する学習の全体像を次の表2に示し、どのようにナラティブ・アプローチを取り入れたかを示す。そして、大まかな1年間の

取り組みを述べていきたい。

### ① 8年生の家庭科で何を学ぶか

8年生になって、家庭科で何を学ぶかのオリエンテーションを行い1年間の学びの見通しを示した。そして、一人一人が、幼い頃の思い出を振り返るために幼い頃の聞き取りを課題とした。家族構成は、様々であるので家族の誰でもよいし、親戚の方でもよいと話した。このように家族へ自分の幼い頃のことを聞くことで、自分の幼い頃に思いを馳せ、これから始まる幼児とのふれあい体験学習に生かそうとした生徒が多かった。

全体的な傾向としては、幼児をプラス面からとらえたキーワードが多かったが中には「うるさい」「わがまま」というようにマイナス的なとらえ方をしている生徒もいた。これは、最後の授業でもう一度イメージマップを見て振り返り「はじめと今の幼児についてのイメージの違い」を感じさせるようにしようと考えている。

### ③ 幼児の遊びと心身の発達

幼児の遊びと心身の発達について、資料集や教科書も使用して、次のような内容を学んだ。これらの学びは、ふれあい体験などの実践的体験的活動に役立つように、活動の間に位置づけ、年間通じておこなうようにした。

表2 ふれあい体験学習とナラティブ・アプローチ

幼児とのふれあい体験とそれにかかわる学習			
学習活動	実践的・体験的取り組み	振り返りやメッセージなど自分を見つめての書く活動(ナラティブ・アプローチの材料)	時間 家庭科以外の時間
8年生の家庭科で何を学ぶか	家族への聞き取り	幼い頃について聞き感を書く。	1
自分の幼児期を振り返ろう	幼児のイメージマップ作り		1
幼児の心身の発達と成長を考えよう①		出会いの前の気持ちを書く。	2
ペア幼児さんとの出会いに向けて	役割演技などで本番のシミュレーション	コミュニケーションの取り方など学び、出会いに向けての気持ちを書く。	1
幼児さんとのふれあい体験学習	隣接する附属幼稚園へ行く	ペア幼児さんとの出会いで心に残ったことを書き留めておく。	1
ふれあい体験学習の振り返り	フォトカードの作成とプレゼン	ペア幼児さんとの写真を貼ってメッセージをつけてフォトカードを作成しプレゼントする。	1
幼児の心身の発達と成長を考えよう②			2
幼児の生活と遊びを知ろう	幼児の食生活とおやつ		2
生活の課題と実践(夏休みの課題)	幼児に適したおやつの実践とレポート		夏休み
自分の成長と家族①		ペア幼児さんとのふれあい振り返る。	1
自分の成長と家族②			1
幼児に適したおやつを作ろう	幼児向けのおやつ調理実習	調理実習のまとめのレポート	2
幼児のためのプレゼン作りに向けて			1
衣生活の工夫 布を用いた物の製作	基礎基本の技能の習得		1
生活の課題と実践(冬休みの課題)	幼児向けのハンダナのデザイン考案と製作		冬休み
ペア幼児さんのためのハンダナ製作	幼児向けのハンダナの製作		4
幼児についての学びを振り返ろう	写真や文章で振り返る	全体の振り返りと自分の物語	1
幼児さんにハンダナをプレゼントしよう	隣接する附属幼稚園へ行く		夏休み
8年生の家庭科の学びのまとめと9年生に向けて	ペア幼児より似顔絵のカードが書く	今の自分とこれからの自分	1

狼に育てられた子 幼児の一日 遊びの重要性 遊びで育つ力 幼児の遊びを豊かにするもの 幼児の遊び場所 伝承遊び 幼児の描く絵 幼児の個性 体の発達 心の発達 (情緒・社会性・ことば) 基本的・社会的な生活習慣の習得 子どもにとっての家族とは

### ④ ペア幼児さんとの出会いに向けて

③のような知識面に加えて、幼児さんとの出会いに向けて、コミュニケーションのあり方について学び、役割演技を取り入れてシミュレーションも行った。

### ⑤ 幼児さんとのふれあい体験学習の概要

- 1) 「出会いのふれあい体験学習」の目標
  - ・ペア幼児さんの名前を笑顔で呼ぶ。自分の名前も伝え、自己紹介ができる。
  - ・ペア幼児さんの行動や特徴を観察することができる。
  - ・ペア幼児さんと楽しく遊びながら、応答的にコミュニケーションをとることができる。

#### 2) 日時

平成24年5月11・18日(金) 9:30~10:00

さくら組と8年1組 すみれ組と8年2組

#### 3) おおまかな流れ

- 1 時間目 事前学習 (かかわり方や注意点など)
- 2 時間目 9:30 園庭へ集合 (家庭科係 はじめの言葉) ペア幼児さんとお出会う (名前を呼ぶ 自己紹介) 共に遊ぶ (園庭でも部屋でもよい)

園庭へ集合 (幼稚園の先生から 全体でふりかえ

### ② 幼児のイメージマップを作ろう

幼児のイメージマップを個人で作成し、さらに班で深めて、一枚の用紙にまとめた(図1)。

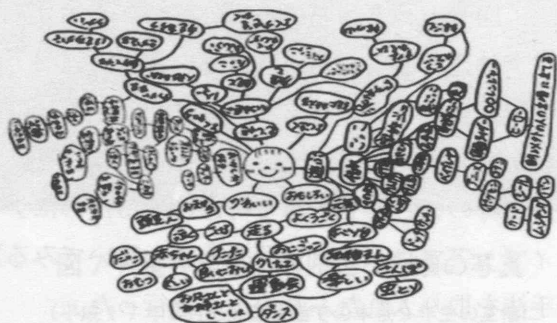


図1 幼児のイメージマップ作成(グループで)

り 家庭科係 おわりの言葉) 夏休みの課題として、幼児に適したおやつを考  
ペア幼児とことばを交わし握手をして中学校へ帰  
る(今日をふり返ってまた運動会の練習で会う事  
などを伝えて別れる。)

10:10 中学校被服室集合 ふり返り



図2 ペア幼児とふれあっている様子

### ⑥ふれあい体験学習の振り返り

ふれあい体験後、  
写真を貼り付けて  
メッセージカードを  
作成した。ペア幼児  
がその写真を見たり  
家の人にその文章を  
読んでもらうであろ  
うと考えふれあい  
の中でペア幼児が覚  
えている内容を盛り  
込んだ。

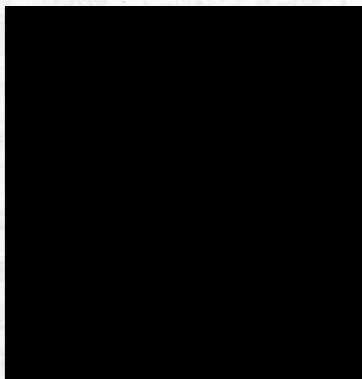


図3 ペア幼児への  
メッセージカード

### ⑦運動会に向けての踊りの練習(時間外)

家庭科の時間ではなく、特別活動の時間で、ペ  
ア幼児と共に運動会の踊りの練習に取り組んだ。  
本番を含めると4回は練習の時間があり、この時  
本格的にふれあい、相手のことを理解していった。

### ⑧幼児の食生活とおやつ



図4 幼児に適したおやつ作りの実習

夏休みの課題として、幼児に適したおやつを考  
えてきた。そして、そのレポートを交流しあって、  
班で幼児に適したおやつを作る調理実習を行った。  
図4の班のように、ホットケーキに動物の顔を描  
くなどどの班も工夫を凝らしたものができた。こ  
の時は、実際にペア幼児と交流のあるおやつ作り  
にはできなかったが、幼稚園の先生方に届けて試  
食していただいた。

### ⑨ペア幼児のための小物作り

幼児に手作りのプレゼントをする場合何がいい  
か意見を出し合った。その結果、「布で小物を作  
る」ことになった。その理由は、「ずっと大切に  
してもらえそう」「生活の中で使えそう」「自分  
ももらって嬉しかった経験がある」「自分たちの  
針や糸を使ってのスキルアップ(来年、衣服製作  
をするとしたら)にもつながる」というものだっ  
た。実際には、図5に示すように、100円均一  
ショップ等で売られているバンダナへ家庭にある  
糸や布やフェルト、アプリケなどを自由に使って、  
縫ったり飾りをつけたりして、オリジナルのバン  
ダナに変身させることにした。そして、思いを伝  
えるためにペア幼児の名前も入れることにした。

おやつ同様に、冬休み前に基礎基本を学習し、  
休み中に家庭で進めておくこととした。

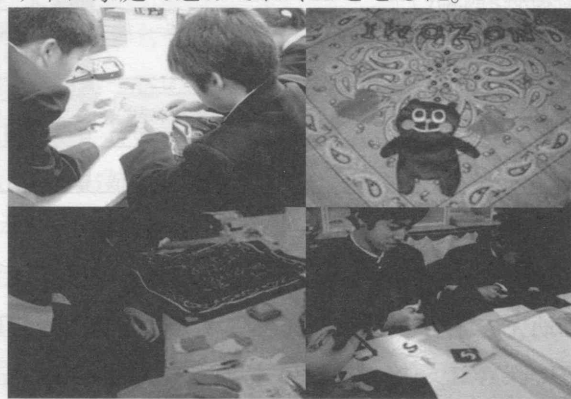


図5 ペア幼児のためのバンダナ作り

### ⑩ペア幼児とのふれあいと自分の物語

ペア幼児へのプレゼントを製作している途中に、  
ふれあい体験や幼児についての学習全体を見直し、  
自分自身のことも重ねて考えさせるためにナラ  
ティブ・アプローチ(自分の物語を書いてみる)  
の手法を取り入れたふりかえりを行った。

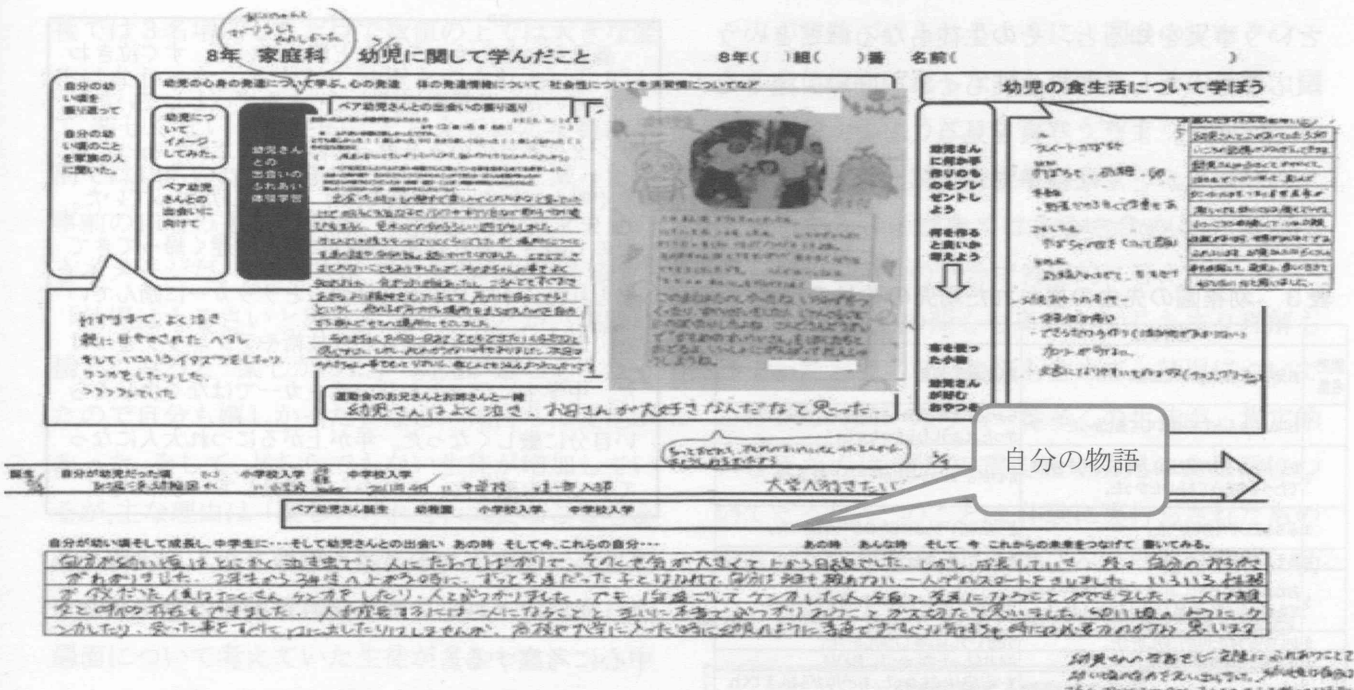


図6 幼児に関する学習の全体像のまとめと自分の物語の記述のワークシート

これは、今までに学習してきた幼児についての学びのあしあとを図6に示すような大きなワークシートの中に実際に示した。そして、自分の幼児期からの人生を振り返るために、自分たちが幼児の時に中学生に絵本を読んでもらっている写真なども提示した(図7)。その上で、8年生になってからの幼児とのふれあい体験と自分の幼児期から今の中学生期までをふりかえり、「自分の物語」を書いてみようとして投げかけた。幼児だった頃に当時の中学生にしてもらったことを、今度は自分がしていく年齢に成長していることを実感させて、自分の幼少期に思いを馳せて考えさせた。

また、ペア幼児のつぶやきをふれあい体験当日



図7 現8年生が幼児だった頃の写真  
 (平成17年3月三原図書館での本校9年生の主催による読み聞かせに参加して絵本を見つめている様子)

の写真とセットで紹介した。A君の語りとそのA君と遊ぶ8年生の姿を一例として提示した。この幼児のつぶやきも貴重な記録で、中学生だけでなく幼児自身のナラティブ・アプローチでもある。それを、中学生自身が自分のことも振り返りながら、あの時ペア幼児は、このように感じていたのだということを知ることができた。この語りの記録は、幼稚園の担任の先生が中学生とのふれあい体験後に園児に聞き取りを行い、それを届けてくれたものである。その写真(図8)は、生徒2人がペア幼児とシロツメクサで遊んでいる様子である。この場面で自分たちがしたことを、後でペア幼児(表3の16の語り)が担任の先生に感想として語っている。自分たちが幼児にかかわったことが幼児の心に残りそれを幼稚園の先生に語っている



図8 表3の16の幼児とのふれあい

という事実を知ると、その生徒もなるほどという反応であったし、他の生徒もそれを聞いて嬉しそうであった。また、写真を見ることで、同じクラスの同級生がどんな様子で幼児にかかわっているかを知ることができた。

表3 幼稚園の先生の書かれた幼児の語りの記録

園児名前	2012.5.18	2012.6.4
	お兄ちゃんお姉ちゃんと出会いの日	踊りの練習1回目
1	おにいちゃんとすべりだいて楽しかった	ちょっとおどれた。かもめのすいへいさんうたえんかった。しようわねかったから。
2	かいがらひろうのがたのしかった。よもぎをなまてたのしかった。やさしいおねえちゃんだった。	かいがら、みつからなかったけど楽しかった。
3	ぶらんこしてたのしかった。	どろだんごいっしょにしたのがたのしかった。
4	あそぶのがたのしかった。	あそんでのしかった。
5	おねえちゃんといっしょにすべりだいてぶらんこしてたのしかった。やさしいおねえちゃんだった。	おねえちゃんといっしょにきんぎょそうのした。
6	かいがらうめたのがたのしかった。	うさぎいっしょにみてたのしかった。
7	泥水と三輪車が楽しかった。	さんりんしゃたのしかった。おどりも。
8	お姉ちゃん二人と色水したのが楽しかった。	すべりだいたのしかった。おどりがおしえてくれてよかった。
9	楽しかったし嬉しかった。滑り台とか一緒に滑ってくれた。	たのしかったしうれしかった。かもめのすいへいさんが、いっしょにあそんだのも。
10	色水して楽しかった。	まぜるのがたのしかった。
11	車で遊んで楽しかった。	すべりだいたのしかった。おどりがおしえてくれた。さいご。
12	色水と滑り台	いいさんよかった。
13	たのしかった。	からなんかうれしかった。いっしょにすべりだいたのしかった。
14	お兄ちゃん二人と三輪車こいだのが楽しかった。	おどるのがたのしかった。
15	お兄ちゃん二人と三輪車こいだのが楽しかった。	じてんしゃたのしかった。おどりもたのしかった。
16	指輪して楽しかった。お兄ちゃんシロツメクサで人作った。飛行機も楽しかった。お兄ちゃんがびよ〜んでジャンプしてなんかねえすこかった。	おにいちゃんといっしょに遊んだ。たのしかった。
17	自転車でかけたのが楽しかった。お姉ちゃんと一緒にエビフライつんだのがたのしかった。すこいスピードでびゅ〜んっていってすこかった。	かもめのすいへいさんがとつてもたのしかった。とんとんがたのしかった。
18	砂場で遊んだのが楽しかった。	おどるとおしごと(こうじ)がたのしかった。
19	だんご作ったり虫取りで遊んだのが楽しかった。	おやすみ
20	いろみずいっしょにするのがたのしかった。	おはなつみがたのしかった。かもめのすいへいさんもたのしかった。
21	おにごっこしてたのしかった。	かもめのすいへいさんばちがたのしかった。

図8の幼児の語り

暴君だった。カーテンなど壊していた。すぐ泣きわめいていた。幼稚園では〜ごっこをずっとしていた。サンタは本当にいると思っていた。また何かあったらすぐ叫んでいた。小学校ではすぐに遊びたがっていた。なので暇さえあれば常に遊びに行き遅く帰ってきて怒られた。小学2年からはずっとサッカーに励んでいた。遊びがサッカーに変わり技術やテクニックをつけた。中学生になったら甘いサッカーではなく少しくらい自分に厳しくなった。年が上がるにつれ大人になっていくのを感じた。これからも成長していきたい。

以上が、現在までの大まかな取り組みの実際である。次にはこれらの取り組みに関する意識調査を中心に考察する。

### 5 研究の結果と考察

調査対象者は、本校の8年生81名であった。またふれあい体験を行った幼児は、広島大学附属三原幼稚園の年中組に属する41名であった。人数の関係から基本的には8年生2人と幼児1人がペアを組むこととした。

次の図9は幼児とのふれあい体験学習前とふれあい体験学習後半年が経過したまとめの時期(2013年1月)に調査した生徒の意識である。特に、ふれあい体験後半年が経過した時期に過去の経験が、今現在どのような意味を持つかを問いかけてみた。その結果、全体の約70%の生徒が幼児とふれあうことは楽しいと感じていて、事前と事

### 生徒が図6のワークシートに書いた自分の物語

自分が生まれたときはすぐに目を開けてびっくりしたと聞いたので好奇心旺盛だったのかなと思う。幼稚園になって元気なちょっと悪い子だった。でも幼稚園の劇で、自分の夢を見つけることができたのでそれは良かったと思う。またペアのお姉さんとも仲良くたくさん話したことを覚えている。今、部活でもリーダーとしてみんなを引っ張る力がついていかなと思う。これからも色々なことを知り成長していきたい。またペア幼児さんとの出会い昔の自分を思い出せたので、昔私もそうしてもらったようにペアさんを大切に、ペアさんが大きくなったら私を思い出してほしい。

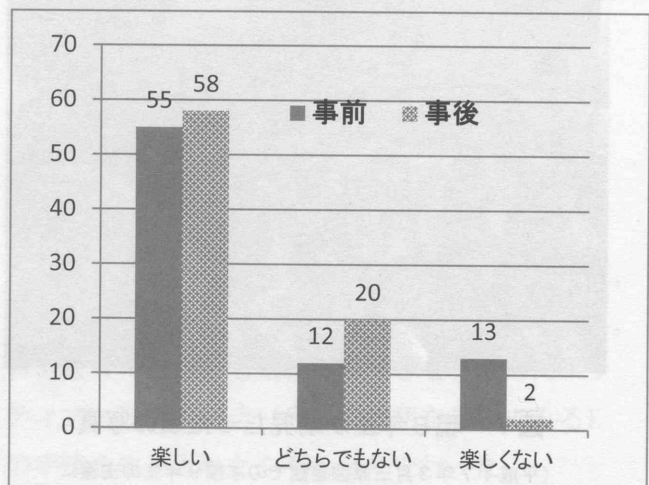


図9 幼児とふれあうのは楽しいですか

後では3名増加しただけで数値の上では大きな変化はなかった。しかし、幼児とのふれあいに関して、楽しくないと否定的にとらえていた生徒は事前では13名いたが事後では2名に大きく減った。事前の13名の主な理由は、「幼児は、わがままというイメージだ。」「泣かせてしまわないか不安だ」「幼児はうるさいと思う」などだったが、実際に接してみると「楽しかった」「幼児が嬉しそうだったので自分も嬉しかった」など、気持ちに変化があった。そして、どちらでもない生徒が増加しているが、主な理由は「楽しいけれど、大変なこともある」というように幼児と関わるには楽しいだけではなく自分が時に我慢したりしなければならない場面について考えていた生徒が多かった。

また、表面上は分からないが、事前に楽しかったと答えた生徒55名の中で9名の生徒が意識に変化があった。9名中7名の生徒が、楽しいが大変だったので「どちらともいえない。」という意識に変わっており、2名の生徒は「楽しくない」という否定的にとらえていたことが分かった。「対応が大変で、いけないことを言っても直してくれない」「友達とは接し方が違って大変」というものだった。それに対して、事前に楽しくないと答えた13名中5名は楽しいという意識に変わっておりこの理由は、「遊んでみるとおもしろかったし、楽しかった」と自分のイメージとの違いを感じた生徒もいた。このように、個人の意識の変化に目を向けると、中学生や幼児の個の特性に原因を求めることもできるが、概ね全体としては幼児とのふれあいに関して体験することで肯定的に考える生徒が増えたと言える。

このような一連の活動を終えた1月に次の表4のような①～⑨の問いを投げかけて、自己評価を行い、それぞれの活動の学びの意味を考え直す活動を行った。その結果を図10に示す。ほぼ全員が、肯定的に回答したがどちらとも言えないと回答した生徒は3名で、理由は「将来幼児に関する仕事に就くとは限らない」「そんなに意味を深く考えない」というものだった。ワークシートの問いに答えるだけでなく幼児についての学びを生徒ひとり

一人が意味づけられるように、図6のワークシートの全体像を確認しながら進めた。その結果、図10から分かるように、9つのうち7つの間で約60%の生徒が、関心や理解が高まったと答えた。どちらかといえばあてはまるも含めると、どの項目も80%～90%の割合で肯定的に答えた。

また、幼児への関心も高くなり、あまり理解も高まったと言えない生徒も含めて、幼児についてこの9つの問いのうち一番多くの生徒が、肯定的に答えたのは、遊びの重要性や幼児の食生活についてだった。このことは、体験に裏打ちされたものであるからだと考える。共にペア幼児と遊び、幼

表4 幼児についての学びを自己評価で振り返る

幼児に関する学習での目標	
① 幼児への関心	幼児への関心は以前よりも高くなったと思いますか。
② 幼児の心身の発達	幼児の心や体がどのように成長していくか分かるようになりましたか。(身体の発育、運動機能、言語、情緒、社会性など)
③ 幼児にとっての家族の存在	幼児期の家族や周囲の人々との信頼関係や基本的な生活習慣形成の重要性つまり幼児期の家族の役割について理解できましたか。
④ 幼児にとっての遊び	幼児期の遊びの重要性(幼児は遊びの中から多くのことを学ぶこと)が理解できましたか。
⑤ 幼児とふれあう時	幼児への接し方、話し方、遊び方などを工夫できましたか。
⑥ 幼児の食生活	幼児の食生活の特徴を理解し、幼児に適したおやつを考えることができましたか。
⑦ 自分自身の幼い頃	自分の幼児期を振り返る事ができましたか。
⑧ 自分の家族への感謝	家族をはじめ多くの人々に支えられ成長してきたことを感じ、感謝の気持ちを持つことができたと思いますか。
⑨ 幼児についてのふりかえりと自分の物語	全体を振り返り、自分の幼児期から今そしてこれからの生き方について簡単な物語を書きました。自分の過去から現在、未来へと人生を見つめる事で「幼児期」の重要性をより考えることができましたか。

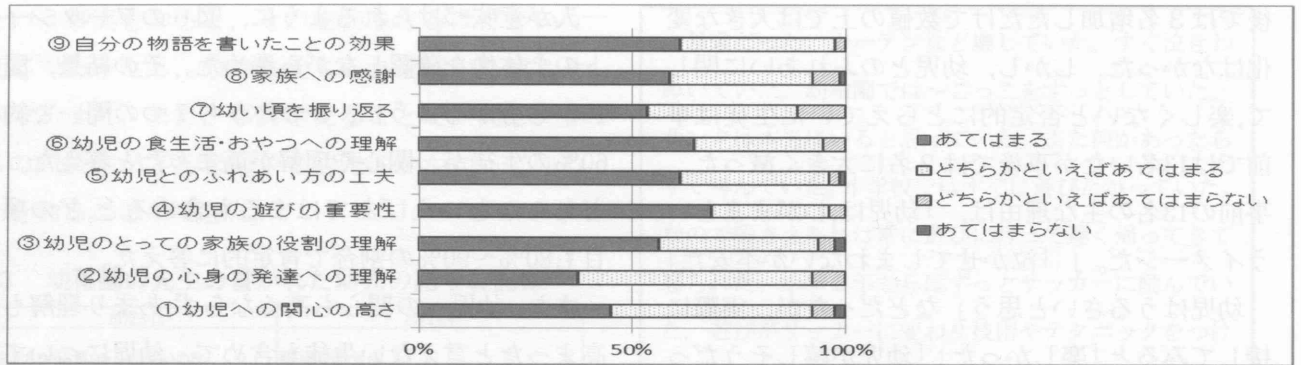


図10 幼児に関する学習内容についての自己評価

児向けのおやつを個人で考え実践したあと、再びグループで話し合っただけで実践したからであると考えられる。その反対に、一番数値が低かったのは幼児の心身の発達についての理解度である。ワークシートを中心に学んだので、実際に深く理解できた実感に乏しい生徒が多いと感じた。具体的で、より分かりやすい授業を創っていくことが課題である。

そして、ナラティブ・アプローチとして取り入れた自分の物語について考えたことが効果的だったかという自己評価についても否定的にとらえた生徒は2名で、その2名とも幼児とふれあうことは楽しくないと考えていた。しかし、全体としては、自分の物語を書いたことが効果的であると考えており、その内容に注目してみても、図7に示したように幼い頃を客観的に見つめ、これからの生き方を具体的に記述している生徒が多かった。

よって、幼児とのふれあい体験に関して、自分の感想などを中心に振り返ったり、事後学習に、「あの時」「今」「これから」の自分を語る活動を取り入れたことは、効果的であったと考えている。そしてまた、学びの全体像を一枚の用紙にまとめふりかえり、その「意味づけ」を行うことで、実践的体験的な学びが、客観性や科学性を伴い、これからのひとり一人の考え方に影響を与えると考えることができる。そして幼稚園の頃、中学生に何かしてもらった経験が心に残り、自分がされて嬉しかったことを今度は自分がしていこうと思う気持ちに気がつくこともナラティブ・アプローチであると思う。そのため、現在取り組んでいるバンダナをプレゼントする際には、このバンダナは将来中学生

になって、幼児について学ぶ頃つけてみて下さいという未来へのメッセージを添えようと話している。つまり、自分がしていることを今5歳のペア幼児が約10年後、中学生になった時、また同じように幼い頃を振り返りながら実践するかもしれないという可能性を伝えた。

## 6 終わりに

自分の幼い頃や、将来の自分に思いを馳せながら、幼児とふれあいそして自分を振り返る活動は自己の変容を促し、これからの新たな生活を創っていくきっかけになると考える。また、幼小中一貫教育校である本学校園でこそ、12年間を振り返ったり、バンダナを中学生になって使用するという自己の物語を作り出すことのできるナラティブ・アプローチを意図的に取り入れることで、この幼児についての学びが、その生徒ひとり一人の「生きる力」につながると考える。

### <参考および引用文献>

- 1) 文部科学省：「中学校学習指導要領解説技術・家庭科編」, 2009. 7, 教育図書.
- 2) 北澤晃：書くことによるナラティブ・アプローチ—未来をひらく自己物語—, 2012. 3, せせらぎ出版.
- 3) 梶田叡一「未来をひらく自己物語Ⅱ—ナラティブ・トレーニングのすすめ—」特別寄稿 アイデンティティと自己語り・自己物語 2012. 10, せせらぎ出版.